

キーワード (KW) 集発刊委員会 2020 年度報告 - 「総合人間学 KW 集記述モデル」に関して -

The 2020 Annual Report of the Key Words (KW) Collection Publishing Committee: About “the Descriptive Model for the Synthetic Anthropology KW Collection”

KW 集発刊委員会

The KW Collection Publishing Committee

KW 集発刊委員会 (KW 委員会) は、その準備組織 KW ワーキンググループ (2018 年 6 月～2019 年 3 月) の「総合人間学 KEY WORDS 集」の発刊に向けての提言および KW50 項目の提案を受け、2019 年 4 月に発足しました。KW 集作成に当たっては、一般会員のみならず非会員にも執筆を依頼することになるため、KW の記述に参考されるべき一定の様式・基準が必要となります。従って、委員会はこれまで、総合人間学会ならではの KW の記述はどのようなものかについて討議を重ね、三つの異なる様式で以下の記述モデルを作成しました。

事例 1: 「総合人間学」

「前文」提示下の執筆依頼原稿編集の試み (前文+本文)

- ・ 各論の執筆依頼時に「前文」を示し、それを踏まえた記述内容を要請することで、記述に一定程度の統一感を持たせる。
- ・ 規定が困難なタームの記述に適する、と考えられる。

事例 2: 「〈自己家畜化〉論」

複数者による共同執筆の試み (記述の一本化)

- ・ 研究会等での議論を経ながら、種々の意見を反映した記述を目指す。
- ・ 既存の学問分野での議論の蓄積が乏しく、総合人間学に固有となり得るタームの記述に適する、と考えられる。

事例 3: 「DNA と人間」

複数者による対話的執筆の試み (複数者の記述の並存)

- ・ A が問い、それに B が応える。それをまた A が批判し、B や C が応じる。
- ・ 既存の学問分野のタームを総合人間学の文脈で問い直し、意義的に拡張されたタームの記述に適する、と考えられる。

いずれの場合も、記述にあたって、(1) イントロ、(2) 本論、(3) 総合人間学 KW としての

意義、(4) 発展的論点、(5) 批判的論点、(6) まとめ、(7) 文献 (10 編以内)、等に留意しました。また、各 KW の文字数は 3000 字前後を目安とし、総合人間学の特性から、一項目につき専門を異にする複数者 (3~5 名) の共同執筆を目指しました。ただ、議論を尽くしてもなお課題は残るため、異論・反論／補足・コメントなどの枠も設け、次の議論の機会に備え工夫を施しています。そして、今後の更なる研鑽を企図して、記述様式のポイント、総括 (記述後のコメント) を各事例に付記しました。KW 集記述モデルに記載された項目は以下の通りです。

事例 1: 「総合人間学」

(記述様式のポイント、前文、本文 1, 2, …、総括)

(本文例)

総合人間学における知の構造

総合人間学の条件

私の総合人間学

私の考える総合人間学 -人間存在の 3 層構造-

総合人間学研究の進め方を考えるための基盤としての人間の生物性

事例 2: 「〈自己家畜化〉論」

(記述様式のポイント、本文、異論・反論、補足・コメント、総括)

事例 3: 「DNA と人間」-DNA はどこまで人間 (ヒト) を語れるか-

(記述様式のポイント、本文、異論・反論、追記、補足、総括)

なお、実際の「総合人間学 KW 集・記述モデル」は三十数ページの分量があるため、別途、総合人間学ホームページに掲載致します。是非こちらをご覧ください、ご意見を hasebat@nms.ac.jp までお寄せください。

この記述モデルはあくまでも試行錯誤段階のものでありますが、今後、当委員会は学会員の皆様に総合人間学 KW 項目リストを提示して、KW 執筆の依頼または公募を行う予定です。皆様のご協力を得てより実行可能かつ総合人間学会らしいものにして行きたいと考えております。

2021 年 4 月 7 日

KW 委員: 穴見慎一、太田明、小原由美子、河上睦子、長谷場健 (委員長)、古沢広祐
(協力員: 岩田好宏、上柿崇英、三浦永光)